

標準化と知財に関する インターンシップ受入れ体制

キヤノン株式会社
知的財産法務本部
知的財産渉外センター
標準・知的財産推進部
出井 克人
dei.katsuhito@canon.co.jp

第9回国際標準化教育研究会 2012/1/20

目次

1. キヤノングループの概要
2. 事業分野
3. 組織概要
4. 標準化部門の活動
5. 標準の必須特許と周辺特許
6. 差別化と標準化
7. インターンシップ受入れの目的
8. インターンシップの実績
9. 学生の傾向
10. 有意義なインターン活動のために
11. 2011標準部門の教育プログラム
12. 座学プログラム
13. 標準化会議実地体験
14. 個別調査テーマ
15. 社会人としての調査の進め方、報告するという事
16. 学生の印象
17. 学生に得てもらったと思う事
18. インターンシップに期待すること

第9回国際標準化教育研究会 2012/1/20

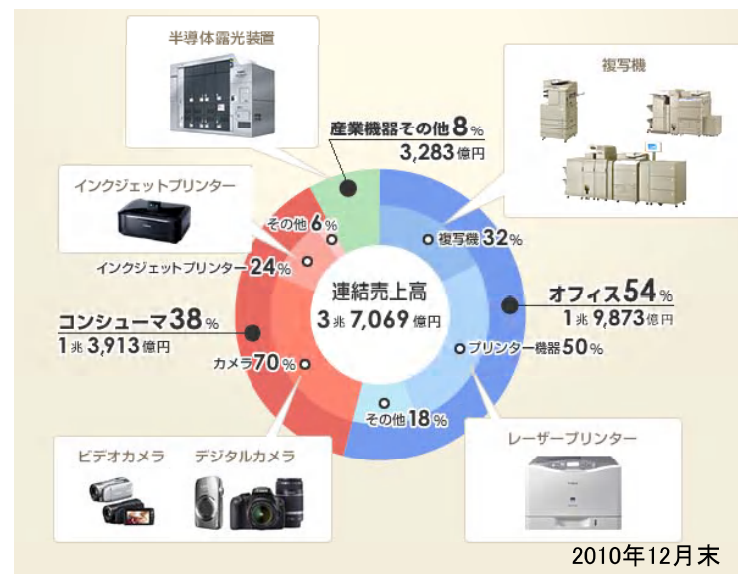
キヤノングループの概要



- ◎ 創業 1937年
- ◎ 売上高（予測） 3兆6500億円
- ◎ 純利益（予測） 2,300億円
- ◎ 従業員数 199,820人
2011年9月末（決算期12月）
- ◎ 本社所在地 東京都大田区下丸子

第9回国際標準化教育研究会 2012/1/20

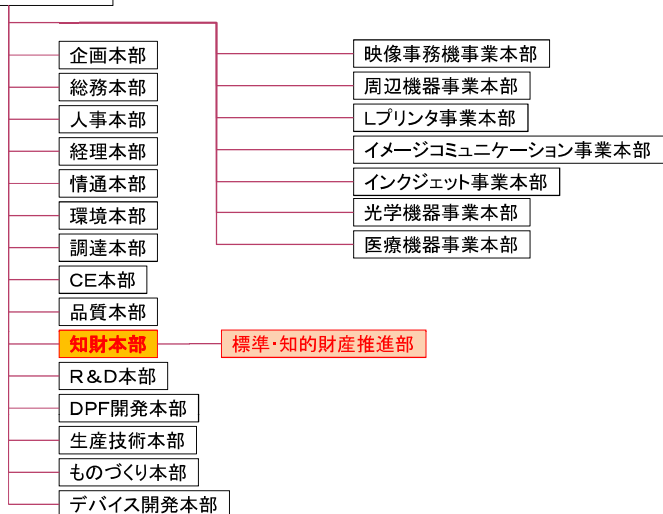
事業分野



第9回国際標準化教育研究会 2012/1/20

組織概要

キヤノン株式会社



第9回国際標準化教育研究会 2012/1/20

5

標準化部門の活動

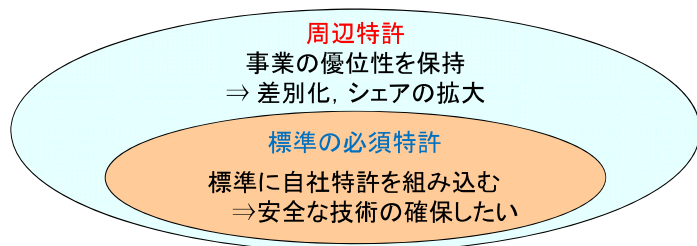
- 標準化に関する情報を共有し事業戦略・開発戦略に役立てる
- 標準化への取組みを支援する
- 標準関連特許獲得を推進する

第9回国際標準化教育研究会 2012/1/20

6

標準の必須特許と周辺特許

- 必須特許とは
 - 標準を実施するのに回避できない（代替技術がない）特許
 - ⇒ 標準化組織のルールに従って**ライセンス**する（RAND等）
- 周辺特許とは
 - 標準の必須特許ではないが、標準の関連技術や実装に関する特許
 - ⇒ **ライセンスの義務はない**



第9回国際標準化教育研究会 2012/1/20

7

差別化と標準化

- 自社だけでは市場に普及させることができない技術
 - 他社と協調して普及させる方がメリットが大きい技術
- ⇒ **標準化する** ⇒ **市場の拡大**

特許との関連

安全な市場を確保するための標準化メンバーの特許

- 差別化要素として位置付ける技術
- ⇒ **標準化しない** ⇒ **シェアの拡大**

特許との関連

自社シェア確保のための差別化特許

第9回国際標準化教育研究会 2012/1/20

8

インターンシップ受入れの目的

- ◎ 日本の将来を担う学生の人材育成の一環として捉えている。
- ◎ 会社の業務を体験してもらう事で、インターン生のキャリア形成の一助となれば幸いだと考えている。
- ◎ インターンシップの内容を学校にフィードバックしてもらうことで学生の就職活動の情報源となってもらい、結果的に優秀な人材の確保につなげる。
- ◎ 学校、先生とのコネクション強化を図る。

インターンシップの実績

- ◎ 標準部門でのインターンシップ受け入れ状況
 - 2010年に1名（8月下旬から2週間）
 - 大阪工業大学
 - 2011年に3名（8月下旬から2週間）
 - 大阪工業大学
 - 東京理科大学
 - 公立はこだて未来大学
- ◎ 特許部門でも数名を継続して受け入れている

2011年の学生の傾向

- ◎ 2名は標準化についての知識は無く、（知財専攻の）1名は知財の知識の一部として勉強していた。
- ◎ 標準化の勉強を目的とせず、ワークエクスピアリアンズを持ちたいこと and/or キヤノンと言う会社への興味で応募している。
- ◎ キヤノンと言うブランドは身近に感じるが、会社についての知識は少ない。ただし（知財専攻の）1名はキヤノンは知財を重視する会社としての認識を持っていた。

有意義なインターン活動のために

インターンの意義

- 学校で得る知識の実践的補完
- 標準、知的財産に対する知見を広げる
- 職業観の形成に役立てる

心得

- なんでも吸収しようとする意欲を持つ
- わからない事は質問する - 遠慮しない、疑問を放置しない
- 遅刻をしない、居眠りをしない - 社会人の基本

2011標準部門の教育プログラム

◎ 座学

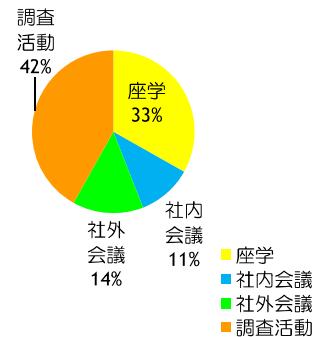
- 社内教育プログラムの一部を研修期間の1/3を割り当てて実施した。

◎ 標準化会議実地体験

- 研修期間に実施されている標準化会議の中から、学生が参加可能な会議を選び、委員会に了解を得て実地研修した。

◎ 個人別調査活動

- 主にWeb探索に拠る、テーマを絞った標準化関連調査活動をまとめて、最終日に報告/質疑応答を受ける。4割の時間を充てた。



座学プログラム

- ◎ 企業と標準
- ◎ 企業と特許
- ◎ 標準と特許, 独禁
- ◎ 契約実務
- ◎ 模倣品対策
- ◎ 商標
- ◎ 意匠
- ◎ 著作権
- ◎ 工業デザイン(UI)
- ◎ 製品分析

標準化会議実地体験

◎ ISO/IEC JTC 1 国内審議委員会

- 情報規格調査会主催
- 参加人数は40名程度
- 機械振興会館

◎ JTC 1/SC 34 専門委員会

- 情報規格調査会主催
- 参加人数は7名程度
- 日本マイクロソフト新宿本社

◎ 画像電子学会国際標準化教育研究会運営委員会

- 画像電子学会主催
- 参加人数は10名程度
- キヤノン電子本社

個別調査テーマ

- ◎ ロボット関連技術標準化の概要についての調査
- ◎ 標準化（デジュール・フォーラム）における特許の取り扱いについての調査
- ◎ FDAの概要と申請手続きについての調査

社会人としての調査の進め方、 報告すると言う事

- ◎ キヤノンのビジネスとの関わりを教える
- ◎ その中で標準の果たす役割を一緒に考える
- ◎ 調査対象を絞る
- ◎ 時間配分を決める
- ◎ 一次調査をし、報告書のあらすじを相談する
- ◎ 不足事項を調査
- ◎ 発表のまとめ
- ◎ 報告

3名のインターンに一人ずつ指導者を付けた。

学生の印象 (事後アンケートなどから)

期間

- ◎ 学業も考慮し、2週間は適当な期間～3週間を期待

会社、研修の印象

- ◎ 堅いイメージから風通しの良いフレキシブルな会社と言う好印象
- ◎ 上下関係が厳しいと考えていたが、上の方との議論が出来る会社
- ◎ 学生が3名で丁寧な指導をもらった
- ◎ 質疑・応答形式の対応で理解を深められた

学生に得てもらったと思う事 (事後アンケートなどから)

学生が得られたこと

- ◎ 外部委員会に出席し、標準の誕生の瞬間を垣間見られた
- ◎ 事業戦略との関連が重要なことを理解した
- ◎ 学校でのテーマ関連の研究者と話せたこと
- ◎ 知財、標準、デザイン、ブランドなどが互いに関連して業務を進めていることを知った
- ◎ 学業でできないことを吸収し、社会に備える重要性を感じた
- ◎ 模倣品対策など、ブランドを守るための業務の多様性

インターンシップに期待すること

- ◎ 2週間と言う期間で標準化エキスパートの卵となることは期待していないが、標準化の社会に果たす役割を知識としてでも持ってほしい。
- ◎ 一側面ではあっても会社活動を理解してもらい、就職活動の参考として欲しい。
- ◎ インターン生がそれを学校に持ち帰ることで、結果として多くの学生がキヤノンを就職対象として検討してくれれば幸いだと考える。